令和６年度ノースアジア大学データサイエンス・AI教育プログラム
自己点検・評価

Ⅰ．学内からの視点

１．プログラムの履修・修得状況

学生のデータサイエンス・AIへの関心を高め、かつ、データサイエンス・AIを適切に理解し、それらを活用する基礎的な能力を育成することを目的として、「データサイエンス・AI教育プログラム」を令和５年度後期より開設した。

データサイエンス・AI教育プログラムでは、「コンピュータ利用技術Ⅰ」（２単位）を必修とし、「統計学」（２単位）または、「社会調査の仕方」（２単位）のいずれかの単位の修得（合計４単位）した学生に、「修了証」を発行することとしている。

令和６年度の主な実績としては、文部科学省より「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度（リテラシーレベル）」の認定を受けたことが挙げられる。

各科目の受講者数及び単位修得者数は次のとおりである。

・「コンピュータ利用技術Ⅰ」
　履修者５４名（経済学部５２名、法学部（総合政策学部）２名）、単位修得者４８名

・「統計学」
　履修者２４名（経済学部１５名、法学部（総合政策学部）９名）、単位修得者１６名

・「社会調査の仕方」
　履修者２４名（経済学部１２名、法学部（総合政策学部）１２名）、単位修得者２３名

２．学修成果

令和６年度は、２１名の学生がデータサイエンス･AI教育プログラムの認定要件を満たし、「修了証」を修得した。令和５年度と比較し、修了者数が減少したが（令和５年度は２５名が修了）、前述のとおり文部科学省の「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度（リテラシーレベル）」の認定を受けたことから、今後はより多くの履修者数が見込まれるため、引き続き履修者数・履修率の向上に向けた周知を図っていきたいと考えている。

３．学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度

令和６年度の授業評価アンケートの結果から、「この授業のレベル（難易度）は適切か」という設問に対して、次のような結果となった。

・「コンピュータ利用技術Ⅰ」
そう思う（４７％）、ややそう思う（１５％）、どちらでもない（２３％）
あまりそう思わない（１５％）

・「統計学」
そう思う（５０％）、ややそう思う（０％）、どちらでもない（０％）
あまりそう思わない（５０％）

・「社会調査の仕方」
そう思う（８０％）、ややそう思う（２０％）、どちらでもない（０％）
あまりそう思わない（０％）

一方で、各科目の成績分布は次の結果となった。

・「コンピュータ利用技術Ⅰ」

履修者５４名中	「秀（９０点以上）」	２０名
	「優（８０点～８９点）」	８名
	「良（７０点～７９名）」	１名
	「可（６０点～６９点）」	１９名
	「不可（５９点以下）」	なし
	「履修取消」	６名

・「統計学」

履修者２４名中	「秀（９０点以上）」	８名
	「優（８０点～８９点）」	６名
	「良（７０点～７９名）」	２名
	「可（６０点～６９点）」	なし
	「不可（５９点以下）」	２名
	「履修取消」	６名

・「社会調査の仕方」

履修者２４名中「秀（９０点以上)」　１３名
「優（８０点～８９点)」４名
「良（７０点～７９名)」５名
「可（６０点～６９点)」１名
「不可（５９点以下)」　なし
「履修取消」　１名

一部の科目で理解度等に差があるが、全体的にはアンケートでは約７割の学生から「そう思う」、または「ややそう思う」との回答を得たこと、成績面では約８割の学生が単位を修得していることから、令和５年度と比較し、一定以上の学生の理解を得ていることが伺える。

今回の結果を基に、データサイエンス・AI 教育プログラム推進会議、FD 委員会、科目担当者とで相互に連携しながら、今後は「シラバス」の見直しや理解が遅れている学生への「個別指導」等を通じて、学生の理解度及び興味・関心を高めていきたいと考えている。

４．学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度

令和６年度の授業評価アンケートの結果より、「この授業がこれから役立つか」、「この授業の内容に興味・関心がもてたか」、「新しい知識の習得や関心が深まったか」という設問に対して、約８割（昨年度は約６割）の学生が、「そう思う」または「ややそう思う」と回答した。令和５年度に比べ、学生の興味・関心が高まってきていることが伺える。今後も引き続き、関係資料（履修モデルやカリキュラムマップ、カリキュラムツリー等）を活用しながら、今後履修する学生に推奨度を示していきたいと考えている。

５．全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況

前述のとおり、令和６年度は文部科学省より「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム（リテラシーレベル)」の認定を受けることができた。

今後はより一層、履修者数・履修率向上に向け、データサイエンス・AI 教育プログラム推進会議で適宜、方法等を検討しながら、全学的な周知を図っていきたいと考えている。

Ⅱ.学外からの視点

１．教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価

令和６年度は、データサイエンス・AI 教育プログラムを修了した卒業生を９名（経済学部２名、法学部７名）輩出した。データサイエンス・AI 教育プログラム修了者の輩出は、令和６年度が初めてのことであるため、現時点では評価は難しい。

今後、「キャリアセンター」と連携し、卒業生や就職先の企業へのアンケート等を通じて、現状把握に努めていくとともに、今後のデータサイエンス・AI 教育プログラム改善に向けて検討していきたいと考えている。

２．産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見

上記と同様である。

Ⅲ. 数理・データサイエンス・ＡＩを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること

令和５年度、令和６年度に引き続き、データサイエンス・AI 教育プログラム関係科目を基礎として、さらに発展した「データサイエンス入門」、「データサイエンス基礎」、「データサイエンス応用」、「ビッグデータと AI」等の実践的な科目履修へと繋げるため、履修モデルやカリキュラムツリー等を活用し、体系的に示しながら、全学生を対象としたセミナー等を通じて、数理・データサイエンス・AI についての実践例や学ぶ楽しさ・意義等について、情報発信をしていきたいと考えている。

Ⅳ. 内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること

授業評価アンケートの結果を基に、データサイエンス・AI 教育プログラム推進会議、FD 委員会、科目担当者とで相互に連携しながら、適宜、学生の理解度を確認し、理解が遅れている学生への「個別指導」等を通じて、確実な知識の習得に努めていくことで、内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業となるよう改善していきたい。

また、単位を修得できなかった学生や途中で履修放棄（履修取消）した学生の要因を検証することで、履修した全学生が単位を修得し、最終的には「修了証」の修得へと繋げていきたいと考えている。